

☆年間第25主日(9月18日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (アモスの預言 8章 4-7節)

このことを聞け。

貧しい者を踏みつけ

苦しむ農民を押さえつける者たちよ。

お前たちは言う。「新月祭はいつ終わるのか、穀物を売りたいものだ。

安息日はいつ終わるのか、麦を売り尽くしたいものだ。エファ升は小さくし、分銅は重くし、偽りの天秤を使ってごまかそう。弱い者を金で、貧しい者を靴一足の値で買い取ろう。また、くず麦を売ろう。」

主はヤコブの誇りにかけて誓われる。

「わたしは、彼らが行ったすべてのことをいつまでも忘れない。」

第二朗読 (使徒パウロのテモテへの手紙 12章 1-8節)

愛する者よ、まず第一に勧めます。願いと祈りと執り成しと感謝とをすべての人々のためにささげなさい。王たちやすべての高官のためにもささげなさい。わたしたちが常に信心と品位を保ち、平穏で落ち着いた生活を送るためです。これは、わたしたちの救い主である神の御前に良いことであり、喜ばれることです。神は、すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます。神は唯一であり、神と人との間の仲介者も、人であるキリスト・イエスただおひとりなのです。この方はすべての人の贖いとして御自身を献げられました。これは定められた時になされた証しです。わたしは、その証しのために宣教者また使徒として、すなわち異邦人に信仰と真理を説く教師として任命されたのです。わたしは真実を語っており、偽りは言っていません。だから、わたしが望むのは、男は怒らず争わず、清い手を上げてどこでも祈ることです。

福音朗読（ルカ 16 章 1-13 節）

そのとき、イエスは、弟子たちに言われた。「ある金持ちに一人の管理人がいた。この男が主人の財産を無駄使いしていると、告げ口をする者があつた。そこで、主人は彼を呼びつけて言った。『お前について聞いていることがあるが、どうなのか。会計の報告を出しなさい。もう管理を任せておくわけにはいかない。』管理人は考えた。『どうしようか。主人はわたしから管理の仕事を取り上げようとしている。土を掘る力もないし、物乞いをするのも恥ずかしい。そうだ。こうしよう。管理の仕事をやめさせられても、自分を家に迎えてくれるような者たちを作ればいいのだ。』そこで、管理人は主人に借りのある者を一人一人呼んで、まず最初の人に、『わたしの主人にいくら借りがあるのか』と言った。『油百バトス』と言うと、管理人は言った。『これがあなたの証文だ。急いで、腰を掛けて、五十バトスと書き直しなさい。』また別の人には、『あなたは、いくら借りがあるのか』と言った。『小麦百コロス』と言うと、管理人は言った。『これがあなたの証文だ。八十コロスと書き直しなさい。』主人は、この不正な管理人の抜け目のないやり方をほめた。この世の子らは、自分の仲間に対して、光の子らよりも賢くふるまっている。そこで、わたしは言うておくが、不正にまみれた富で友達を作りなさい。そうしておけば、金がなくなったとき、あなたがたは永遠の住まいに迎え入れてもらえる。

ごく小さな事に忠実な者は、大きな事にも忠実である。ごく小さな事に不忠実な者は、大きな事にも不忠実である。だから、不正にまみれた富について忠実でなければ、だれがあなたがたに本当に価値あるものを任せるだろうか。また、他人のものについて忠実でなければ、だれがあなたがたのものを与えてくれるだろうか。どんな召し使いも二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。」

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

9月に入り少し涼しく感じられるようになってきました。しかし大型の台風がやってきそうですので、少し心配ではありますね。コロナ感染症もそれほど厳しい状況ではなくなりそうですので、ひと安心ですね。教会の活動も少しずつ開かれていくことでしょう。これまでの感染症防止のために私たちは自分を守るという名目のもと、隣人への配慮に欠けていたことは否めません。今後はもっと隣人愛への配慮に気をつけていきましょう。

第一朗読 (アモスの預言 8章 4-7節)

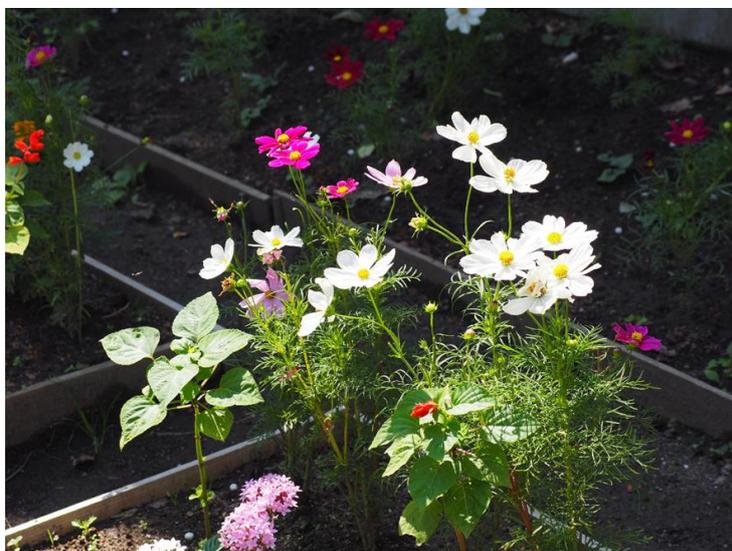
「しいたげられた貧しい人々」へのかかわりはいつの時代にも神の関心事でした。貧しい人々への抑圧は神の怒りをもたらすことでした。今日読まれた預言の言葉は貧しい人々を踏みつける富を持つ人のやり方を批判しています。現代の私たちはどうでしょうか。「ごまかし」よりももっとひどい、無関心、無視の態度ではないでしょうか。人間は忘れるでしょうが、神は忘れないと、アモス預言者は語っています。

第二朗読 (使徒パウロのテモテへの手紙 12章 1-8節)

パウロは「すべての人々が救われて、真理を知るようになることを望んでおられます」と述べて、私たちがすべての人々のために祈りと執り成しと感謝をするよう勧めています。そして、私たちの生活が常に信心と品位を保って、落ち着いた生活を送ることが大事ですと、弟子のテモテに勧めています。当時は主の再臨が近いとのうわさの環境の中で、きっと慌てた生活を送る人やそのように仕向けて人々を惑わすことが起こっていたのでしょう。現代の日本においてもそのような風潮も見られ、人々を苦しめていることも見られますね。しかし、落ち着いた生活とは隣人愛に無関心で良いということではありません。何もしないことをいうものではありません。

福音朗読（ルカ 6 章 1-13 節）

今日の福音は面白い譬えが述べられています。イエスは不正な管理人の抜け目のないやり方をほめているようなのです。管理人のインチキをほめているのではなく、自分の行く末を安全なものにするためにあらゆる手を使って確かなものにする努力を誉めておられるのだと思います。私たちは神の国に無事に入るために危機感をもってあらゆる知恵を働かせて生きていかなければならないのです。またイエスは、小さなことに忠実でありなさいとも勧められます。元来、富というものは良いものです。生活を豊かにするものだからです。しかしそれは皆の物であるのです。独り占めするものではなく、ましてやその富で他の人を抑圧するために使うものではないのです。富の亡者になることを勧めているではありません。私たちは貧しい人々からかすめ取って生活することは許されていないのです。今、日本ではすべてのものが値上がりしています。特に貧しい生活を強いられている方々にはこの物価高は大変です。私たち足立教会の周りにも苦しい生活を強いられている方々がおられます。何も行動しないのは許されないのです。行動しましょう。



サレジオ幼稚園のコスモス（2021年）

P.S.

今日は敬老の日です。神さまの恵みで長生きされてこられた皆さま、おめでとうございます。これからもますますお元気でお過ごしください。

カトリック足立教会

主任司祭 野口重光